

コミュニケーション支援用具・機器の提案・開発

作業療法学科

南雲 浩隆 准教授

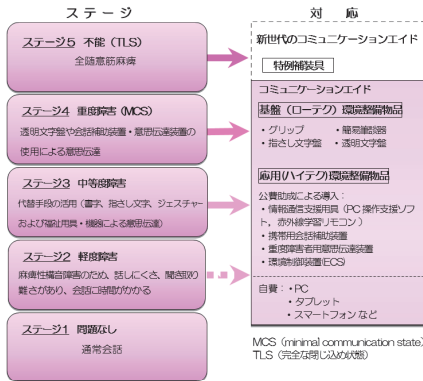
【研究分野】 コミュニケーション支援用具・機器、難病、意思伝達
 【キーワード】 神経難病、リハビリテーション、コミュニケーション支援用具
 【URL】 <http://researchmap.jp/nagumo16>



研究概要

・難病のコミュニケーションにおける支援用具・機器の特徴は、個性が高いことです。必要性が高いながらも実用的な製品が不十分な状況です。しかしながら、これまでの研究から、一般化の出来る汎用性の高い製品を開発をすることが可能になってきています。

コミュニケーションのステージ分類と対応



コミュニケーション用の支援用具



透明文字盤

特殊スイッチ



スイッチ固定用具

研究紹介

＜共同研究・受託研究のご提案＞

- ・難病のコミュニケーション、支援用具・機器について、共同研究や提案を致します。
- ・福祉用具・機器の適合と支援技術に関する研究
- ・神経変性疾患、いわゆる難病は進行性の病気であり、身体機能の状況に合致した支援用具・機器を活用することで、日常生活の自立度を高めるとともに、生活の満足度を大きく改善することが可能です。特にコミュニケーションは、'意思を疎通する営み'として重要であり、身体機能の状況に応じた対応が必要となります。なかでも、ALS向けのスイッチは種類が多く、さらには個性も大きいため導入には細心の留意と対応が必要です。これらについて開発・改良を進めて製品化してみませんか。
- ・難病療養者における生活環境と作業療法支援に関する研究

講座テーマ紹介

- ・コミュニケーション障害のアセスメントと支援についての専門職種向けの講座

アピールポイントなど

- ・東京都における'コミュニケーション障害のアセスメントと支援(在宅難病患者訪問看護師等養成研修)について'の専門職種向けの講座にも協力させていただいています。